

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
エブソン情報科学専門学校		昭和63年12月5日		小林敏一		〒 392-0001 (住所) 長野県諏訪市大和3-6-12 (電話) 0266-58-7410			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人エスイー学園		昭和63年12月5日		阿部栄一		〒 392-0001 (住所) 長野県諏訪市大和3-6-12 (電話) 0266-58-7410			
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
工業	工業分野専門課程	情報電子機械科		平成 7(1995)年度	-	平成30(2018)年度			
学科の目的		本校は「セイコーエブソン株式会社」が地域の強い要望である質の高い情報系、工業系技術者の共有にこたえる目的のために、工業分野の専門過程を設置し、技術および知識を習得させ、中堅技術者として社会に貢献できる人材を育成する。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		情報・電子の基礎から始まり、組込システム・通信・シーケンス制御を学ぶ。また、製図・機械系3次元CADの基礎操作、機械設計、加工技術を学び工業製品や福祉・介護をはじめとするロボット等の開発、改良できるエンジニアを目指す学科。 資格:電気通信国家試験、工事担任者・総合通信・第1級デジタル通信・Autodeskユーザー試験、CAD利用技術者、3次元CAD利用技術者。退学率:1.1%							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		2,400 単位時間	420 単位時間	1,980 単位時間	単位時間	単位時間	
		94 単位		単位	単位	単位	単位	単位	
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)				
50 人	34 人		0 人		0 %				
就職等の状況	■卒業者数(C)		16 人						
	■就職希望者数(D)		16 人						
	■就職者数(E)		16 人						
	■地元就職者数(F)		16 人						
	■就職率(E/D)		100 %						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		%						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		100 %						
	■進学者数		0 人						
	■その他								
	令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日現在の情報 (令和 4 年度卒業者に関する令和 4 年 5 月 1 日時点の情報) ■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) セイコーエブソン(株)ほか								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体:		受審年月:		無 評価結果を掲載したホームページURL				
当該学科のホームページURL	https://www.se-gakuen.ac.jp								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)								
	総授業時数				2,400 単位時間				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				360 単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数				360 単位時間				
	うち必修授業時数				360 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				360 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				360 単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				0 単位時間				
	(B:単位数による算定)								
	総授業時数				単位				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				単位				
	うち企業等と連携した演習の授業時数				単位				
	うち必修授業時数				単位				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				単位				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				単位				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				単位				
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者(専修学校設置基準第41条第1項第1号)				1 人				
	② 学士の学位を有する者等(専修学校設置基準第41条第1項第2号)				0 人				
	③ 高等学校教諭等経験者(専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人				
	④ 修士の学位又は専門職学位(専修学校設置基準第41条第1項第4号)				1 人				
	⑤ その他(専修学校設置基準第41条第1項第5号)				0 人				
	計				2 人				
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				1 人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
企業ニーズ(求人・育成)を逐次把握しながら「社会から必要とされる自立した学生」の育成を図るとともに、年々変化しいる「市場の技術動向」に合わせ、カリキュラムの最適化を進める。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
当校設立の母体であるセイコーエプソン株式会社をベースに教育課程編成委員会を組織する。
同社の専攻部門から委員だけでなく、組織の要である人事部の部長および課長をも委員とする。
委員会において、現状の企業ニーズ、技術動向等を具申しもらい、カリキュラムないようを決定する。
当校教務部会にその意見を反映させる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
伊藤 正敏	長野県情報サービス振興協会 南信支部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	①
小林 由文	セイコーエプソン(株)ものづくり塾	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。)
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
(年間の開催数及び開催時期)
年2回 (9月、2月)

(開催日時(実績))
第1回 令和3年9月10日 14:30～15:30
第2回 令和4年2月18日 10:50～11:20

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
今年度では、以下を実施した。
・「CAD利用技術基礎」を新設。(目的:製図力向上にむけた基礎力教科対応)
・卒業研究の時間枠を増加。(目的:ディスカッションを通して聴く力、伝える力を醸成させる)

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係		
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 当校設立母体である、セイコーエプソン株式会社より、当校に社員を出自させ常勤講師、非常勤講師として、企業企業に求められる授業カリキュラムを実施する。		
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 セイコーエプソン株式会社出自社員が担当(授業の運営～生徒の評価)している。 対象科目は、以下のとおり。 全学科共通科目:「就職活動対策」、「数学基礎」、「ビジネス実務」。 情報電子機械科の専門科目は「電子機械数学」「機械工学」「機械CAD演習」「卒業研究」		
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な科目について記載。		
科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
就職活動対策	自分にとって働くことの意義について考え、自立して行動できることを目指す。面接対策等実践力を養う。	セイコーエプソン(株)
数学基礎	数学筆記試験を突破するための基礎学力をつける。 具体的には基礎的事項を復習し理解を深める。	セイコーエプソン(株)
電子機械数学	論理設計について学び、他科目と連動しながらデジタル技術検定3級対策を進める。後半では論理回路設計や、通信工学等の工学において必要な数学の基礎的な内容を理解する。	セイコーエプソン(株)
機械工学	機械加工で配慮すべき注意点、安全作業の基本、加工の段取りに力点を置き、これらの基本事項を加工作業を通して理解する。	セイコーエプソン(株)
機械CAD演習	3次元CADソフトSolidworksによる3次元モデリングの基本操作及び、設計を円滑に進めるためのモデリング方法を理解する。	セイコーエプソン(株)
3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 関連分野の技術動向や企業が求める人材像に対応するため、教員は関連する知識・技能の習得に努める。 職業実践専門課程運用規定(C710-ISC)にて明確化。		
(2)研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	e-ラーニング「情報セキュリティ基礎2022」	連携企業等: セイコーエプソン(株)
期間:	2022年7月1日～7/29	対象: 教職員
内容	環境変化とともに変化するサイバー攻撃への対応を習得	
研修名:		連携企業等:
期間:		対象:
内容		
研修名:		連携企業等:
期間:		対象:
内容		
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	アンガーマネジメント研修2022	連携企業等: セイコーエプソン(株)
期間:	2022/7/27	対象: 教職員
内容	怒りの感情と、どう向き合えば良いのか	
研修名:		連携企業等:
期間:		対象:
内容		
研修名:		連携企業等:
期間:		対象:
内容		
(3)研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	e-ラーニング「情報セキュリティ教育2023」	連携企業等: セイコーエプソン(株)
期間:	予定	対象: 教職員
内容	情報の取り扱い、サイバー攻撃事例に学ぶ	
研修名:		連携企業等:
期間:		対象:
内容		
研修名:		連携企業等:
期間:		対象:
内容		
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	人事部主催研修	連携企業等: セイコーエプソン(株)
期間:	2023/10/1～2024/3/31	対象: 教職員
内容	指導力向上の趣旨に沿う、人事部主催研修を受講する	
研修名:		連携企業等:
期間:		対象:
内容		
研修名:		連携企業等:
期間:		対象:
内容		

(1) 学校関係者評価の基本方針
「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、学校評価を行う。
保護者、卒業生、企業、団体から委員が参画した学校関係者評価委員会を設置し、自己評価の結果も踏まえその結果を公表する。

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	①学校の教育理念・目標
(2) 学校運営	②学校運営
(3) 教育活動	③教育活動
(4) 学修成果	④学修成果
(5) 学生支援	⑤学生支援
(6) 教育環境	⑥教育環境
(7) 学生の受け入れ募集	⑦学生の受け入れ募集
(8) 財務	⑧財務
(9) 法令等の遵守	⑨法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	なし
(11) 国際交流	なし

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

- ・2022年度コロナ禍であったが、授業、学校行事を計画通り遂行できた事に対し評価を頂いた。
- ・学校行事など、保護者に対し周知方法を改善して欲しい。(紙面配布ではなく、SNSによる配信も)
- ・母体企業(セイコーエプソン)への就職率は昨年、今年と増加した事に対し、学園の取り組みが結果に繋がったと評価。

[illegible]

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())
URL: <http://www.se-gakuen.ac.jp>
公表時期: 令和5年3月以降随時

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
学校評価の公表を含め、学校運営の情報を積極的に提供すること。

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	本校の強み、教育理念、学校評価
(2) 各学科等の教育	各コース
(3) 教職員	教職員紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職情報
(5) 様々な教育活動・教育環境	キャンパスライフ
(6) 学生の生活支援	キャンパスライフ
(7) 学生納付金・修学支援	学費のご案内、学費支援制度
(8) 学校の財務	学校評価
(9) 学校評価	学校案内
(10) 国際連携の状況	なし
(11) その他	なし

(3) 情報提供方法
(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())
URL: URL:
公表時期: <http://www.se-gakuen.ac.jp>

授業科目等の概要

	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			英語基礎	英語のアレルギーをなくすために、自分の意思を簡単な英語で正しく伝えられるための表現、および基本的な文法を身につける。	1通	60	2	○			○			○	
2	○			国語基礎	国語筆記試験を突破するための基礎学力をつける。具体的には新聞記事の要約を通して読解力をつけ、語彙力の定着を図る。	1通	60	2	○			○			○	
3	○			数学基礎	数学筆記試験を突破するための基礎学力をつける。具体的には基礎的事項を復習し理解を深める。併せて計算の速度向上を目的として都度プリント課題による計算トレーニングを行う。	1通	60	2	○			○			○	
4	○			就職活動対策	就活本番に備え、自分にとって働くことの意義について考え、自立して行動できることを目指す。前期は自己分析と職種研究を主体とし、後期は書類作成、面接対策等実践力を養う。	1通	60	2	○			○		○		○
5	○			ビジネス実務	就職活動をする上で、社会人としてのマナーが必要とされている場面で対応できる人材になるよう実践、実習を盛り込みながら習得する。	1通	60	4	○			○		○		○
6	○			特別研修	各学科別にふさわしいテーマを設定し個別指導または自主学習を行うことで各学生の重点分野の習得強化を図る。	1通 2通	180	12	○			○		○		
7	○			コンピュータ・アーキテクチャ	一般的なコンピュータのハードウェアやソフトウェアの仕組みを知る。データの表現方法、メモリやプロセッサの種類、入出力例について理解し、資格試験突破力をつける。インターフェースやマイコンについて知る。	1前	60	4	○			○		○		
8	○			電子物理学実験	前半はデジ検3級合格を目指し、座学で理解したことをブレッドボードの配線/計測にて確認。後半はシミュレーション、回路図表現、部品の理解、計測器の適正活用技術、英語資料読解、n進カウンタの設計及びはんだ付け迄を学ぶ。	1前	150	5		○		○		△	○	○
9	○			プログラミング実習	組込みソフトウェアの根幹となるC言語を、文法・制御文・コーディングスタイルの観点から十分な演習を併用し、確実に習得する。また、演習を通して基礎文法（条件分岐、繰り返し、関数、ポインタ、構造体、ビット演算）を習得する。	1後 2前	150	5		○		○			○	
10	○			通信工学	通信技術を体系的に理解する。電気通信技術の概要、及びデジタル伝送技術全般（TCP/IP等）、ネットワーク敷設・運用・管理の実践について基礎知識を得る。必要に応じ、組込みシステムと連携した科目運用を行う。	1通	90	6	○			○		○		

11	○		シーケンス制御	シーケンス制御の基本をリレーシーケンスで学び、その発展としてPLCによる制御をPLCプログラムの設計～デバッグ・動作確認を通じて学び、シーケンス制御技術の基礎を身につける。	1 後	60	2		○		○			○	○
12	○		組込みシステム	＜I/F分野＞マイコンで機器をきめ細かく制御する方法を再確認する。ボードコンピュータとLinux環境を用いたインターネット接続、プログラミング手法について知る。必要に応じて資格対策や就活対策に組替える。 ＜CAD分野＞AutoCAD ユーザー 試験取得に必要な、CADシステム、コンピュータ分野の基礎知識を学習する。CAD利用技術者試験1級に必要な作図スキルの向上を目指す。 ＜Python分野＞組込みソフトウェアの根幹となるC言語と同様に、Python 言語の文法・制御文・コーディングスタイルの観点から十分な演習を併用し、確実に習得し、卒業研究へとつなげる。	1 後 2 前	180	6		○		○			○	○
13	○		機械工学	機械加工で配慮すべき注意点、安全作業の基本、加工の段取りに力点を置き、これらの基本事項を加工作業を通して理解する。また、寸法測定機器の正しい使い方をマスターする。	1 通 2 前	150	5		○		○			○	
14	○		機械CAD演習	3次元CADソフトSolidworksによる3次元モデリングの基本操作及び、設計を円滑に進めるためのモデリング方法を理解する。CAD利用技術者試験3次元2級の資格取得を目指す	1 通 2 前	180	6		○		○			○	
15	○		メカトロニクス商品化演習	チームごとに、要求仕様の策定～出荷検査までの業務フローを疑似体験し、企業における業務推進の基本を知る。また、メンバーの協力により、各自の持ちうるスキルでは解決し得ない課題をクリアする力が生み出せる事を知る	1 後	90	3		○		○			○	
16	○		電磁波工学	EMC対策から無線通信の運用方法までを知り電子回路、無線通信等の職域に繋げる	2 前	30	2	○			○			○	
17	○		コンピュータ・リテラシ	IT・ネットワークの基礎知識、タイピングスキル・表計算の基本的な操作を習得し、モノづくりに活用できるようにする。日商PC検定データ活用3級、日商プログラミングExcel VBA Standard 取得を目指す。	1 前	60	2		○		○			○	
18	○		機械学習	経験からの学習により自動で改善するコンピューターアルゴリズムの概要とその利用方法について知る	2 前	30	1		○		○			○	
19	○		ロボット工学	自動化装置として産業用ロボットの導入を提案できるようにする	2 後	30	1		○		○			○	○
20	○		卒業研究	2学年前期までに学習したことをもとに、自らテーマを決めて研究に取り組む。	2 通	660	22		○		○			○	
合計				26 科目			2400 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：卒業は各学科の履修科目の定められた全単位の修得及び学生必須資格を取得した者。		1 学年の学期区分	2 期
履修方法：履修方法は講義受講または演習の実施による。		1 学期の授業期間	15 週

(別紙様式 2-1)

実習・演習等において連携する企業等一覧

(工業分野専門課程 情報電子機械科)

	名称	位 置 (所在地)	授業科目名	選任理由
1	セイコーエプソン株式会社	長野県諏訪市	就職活動対策	企業において求められる人材像を知ること、活躍できる人材を育成するため。
2	セイコーエプソン株式会社	長野県諏訪市	ビジネス実務	社会人としてのマナー、身につけたい知識を先取りで学び、就職活動や入社後に活かすため、企業経験者が指導を行う。
3	セイコーエプソン株式会社	長野県諏訪市	電子物理学実験	企業における電子物理学技術の理解と活用を学ぶため、企業経験者による授業を実施する
4	セイコーエプソン株式会社	長野県諏訪市	シーケンス制御	企業におけるシーケンス制御の基本を学ぶため、企業経験者による授業を実施する
5	セイコーエプソン株式会社	長野県諏訪市	ロボット工学	企業における機材を使用し、関連する技術を企業人から実習形式で教育を受ける事で社会に出て即戦力として活躍できる人材を育成するため。

(別紙様式2-2)

企業等と連携した実習・演習等

(工業分野専門課程 情報電子機械科)

授業科目名	就職活動対策	授業時数又は単位数	60時間(2単位)
実施期間	1年次(前期・後期)		
実習・演習等の目的及び概要	就活本番に備え、自分にとって働くことの意義について考え、自立して行動できることを目指す。前期は自己分析と職種研究を主体とし、後期は書類作成、面接対策等実践力を養う。		
企業等との連携の基本方針 (連携企業等の選定理由)	企業において求められる人材像を知り、活躍できる人材を育成する。		
企業等との連携内容	① 自己分析・職種研究 ② 書類作成・面接対策		
学修成果の評価方法	出席状況・課題提出状況		
実習・演習等計画			
日程	実習・演習等の内容	実施場所	
前期	「職業/仕事とは?」「自分にとっての就職活動とは?」について考える。様々な観点から仕事への理解を深め、自分に合った職種探しの一助とする。自己分析、職種分析を行うことにより、方向性を見定め、自発的に就職活動に取り組めるようにする。	231・232教室	
後期	就職活動の実施に向け、実践力を養う。12月下旬から始まる就職活動開始を想定し、書類作成、面接対策を重点に準備を進める。	231・232教室	
連携する企業等	セイコーエプソン株式会社		

(別紙様式2-2)

企業等と連携した実習・演習等

(工業分野専門課程 情報電子機械科)

授業科目名	ビジネス実務	授業時数又は単位数	60時間(4単位)
実施期間	1年次(前期・後期)		
実習・演習等の目的及び概要	就職活動をする上で、社会人としてのマナーが必要とされている場面で対応できる人材になるよう実践、実習を盛り込みながら習得する。		
企業等との連携の基本方針 (連携企業等の選定理由)	社会人としてのマナー、身につけたい知識を先取りで学び、就職活動や入社後に活かすため、企業経験者が指導を行う。		
企業等との連携内容	① ジョブパス3級取得に向けた講義・演習 ② 自己紹介プレゼン ③ 品質管理 ④ 原価計算初級		
学修成果の評価方法	①③④ 各検定試験受験状況 ② 出来映え		
実習・演習等計画			
日程	実習・演習等の内容	実施場所	
前期	社会人基礎力となるビジネスマナーを、ビジネス能力検定ジョブパス3級取得に向けた学習を通じて身に付け、実践に役立てる。	222教室	
後期	品質管理、原価計算の基本を学ぶことで、企業で活躍するために役立つ知識を身に付ける。また、実用的なビジネス数学を学び、実務に関わる数字に対する感度を高める。	222教室	
連携する企業等	セイコーエプソン株式会社		

(別紙様式2-2)

企業等と連携した実習・演習等

(工業分野専門課程 情報電子機械科)

授業科目名	電子物理学実験	授業時数又は単位数	150時間(5単位)
実施期間	1年次(前期)		
実習・演習等の目的及び概要	企業実務で必要となる、電子回路ソフト等の基本操作、活用術を習得する		
企業等との連携の基本方針 (連携企業等の選定理由)	企業における電子物理学技術の理解と活用を学ぶため、企業経験者による授業を実施する		
企業等との連携内容	電子回路ソフト等の基本操作、活用術の習得のための講義、実習を行う		
学修成果の評価方法	定期試験、出席状況、課題、演習の成果、ミニテストにより評価する		
実習・演習等計画			
日程	実習・演習等の内容	実施場所	
前期	電子回路ソフト等の基本操作、活用術の習得のための講義、実習	221教室	
後期	なし		
連携する企業等	セイコーエプソン株式会社		

(別紙様式2-2)

企業等と連携した実習・演習等

(工業分野専門課程 情報電子機械科)

授業科目名	シーケンス制御	授業時数又は単位数	60時間(2単位)
実施期間	1年次(後期)		
実習・演習等の目的及び概要	企業で必要とされるシーケンス制御技術の基礎を身につける		
企業等との連携の基本方針 (連携企業等の選定理由)	シーケンス制御技術の知識を先取りで学び、入社後に活かすため、企業経験者が指導を行う。		
企業等との連携内容	① リレーシーケンスに関する講義・演習 ② プログラム設計に関する講義・演習		
学修成果の評価方法	定期試験、出席状況、課題、演習の成果、ミニテストにより評価する		
実習・演習等計画			
日程	実習・演習等の内容		実施場所
前期	なし		
後期	① リレーシーケンスに関する講義・演習 ② プログラム設計に関する講義・演習		221教室
連携する企業等	セイコーエプソン株式会社		

(別紙様式2-2)

企業等と連携した実習・演習等

(工業分野専門課程 情報電子機械科)

授業科目名	ロボット工学	授業時数又は単位数	30時間(1単位)
実施期間	2年次(後期)		
実習・演習等の目的及び概要	産業用ロボットの基礎知識、法令を学び、アプリケーション作成演習等を通じてエプソンロボットを使いこなせるようになる		
企業等との連携の基本方針 (連携企業等の選定理由)	産業用ロボットに関する知識を先取りで学び、入社後に活かすため、企業経験者が指導を行う。		
企業等との連携内容	① 産業用ロボットに関する基礎知識、法令についての講義 ② ロボットアプリケーション作成演習 ③ ロボットアプリケーションの操作、教示の演習		
学修成果の評価方法	出席状況、演習の成果物、ミニテストにより評価する		
実習・演習等計画			
日程	実習・演習等の内容	実施場所	
前期	なし		
後期	① 産業用ロボットに関する基礎知識、法令の講義 ② アプリケーション作成演習③ アプリケーション操作、教示演習	230教室	
連携する企業等	セイコーエプソン株式会社		